

a 学校教育目標	<p>夢や目標の実現に向けて、 自ら学び ともに伸びようと行動する児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p> <p>【ミッション】 志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】 「自ら学び ともに伸びようと行動する」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞ 「安心安全な学校」「すべての児童に学びの居場所がある学校」「全ての児童に主体的な学びを実現する学校」 ＜めざす子供像＞ 「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子供」「友達に目を向ける子供」 ＜めざす教職員像＞ 「児童を守り、育て、育む」という職責を自覚し、行動する教職員</p>
----------	--	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目 *市の指標	指標	目標値	10月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n	l 評価		m		
						h 達成値	h 達成値	達成度	評価		改善方針	イ	ロ	ハ	コメント	
確かな学力	主体的な学びを実現する取組を通して、学力の定着と本校の目指す資質・能力の育成を追求する	【主体的な学びを実現する授業づくりによる学力定着】	各学級の単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学級平均値が指標に示す点を超える教科数(44教科) 【評価時期】(7月 12月)	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)	44/44 教科					結果と課題の分析	改善方針	イ	ロ	ハ	コメント	
		<ul style="list-style-type: none"> 「今日の学習でどんなことが分かりましたか」「今日の学習は他にどんな場面で使えそうですか」などの発問を通して学習内容の確認、学習内容と関連付け、一般化したり、学習内容と自らをつなげる授業づくり【研究部】 標準学力調査の学級平均値が全国平均以上の教科数(16教科)【評価時期】(1月) ○児童質問紙よりアンケートによる調査 (あ)「授業の内容がよく分かります。」* (い)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができています。」* 【評価時期】(7月 12月) ○教職員アンケートによる調査 (ア)「ペアと全体でのシェアまであるR80を活用した「学びのゴール」から逆算した45分間の授業づくりを行った。 (イ)児童が必要感を持てるような授業導入時の「問い」づくりを意図的に行った。 (ウ)児童の「問い」を深める授業展開時の切り返し発問を意図的に行った。 (エ)学習規律の徹底し、「相手を意識した発表」「他者説明」「聞くことを大切にした指導」などを取り入れ、親和性のある学習集団づくりを行った。 (オ)ねらいを達成するために、授業の始めにデジタル教材を提示する準備をしたり、「置き換える」「共有する」の視点でICT機器等を活用したりするなど授業づくりを行った。 【評価時期】(7月 12月) 	肯定的評価の全児童平均割合 (あ)85% (い)85%													
豊かな心と親和性の高い集団	安心して学べる学習環境の基盤となる。規範意識の醸成とともに、自他を尊重する心情・態度を育成する	【規範意識の育成】	「西小のきまり」に基づく積極的な生徒指導を日常的に実施【生徒指導部】	icheck「自己肯定感」「学級適応感」のクロス集計結果が全国平均以上の児童の割合 【評価時期】(6月 12月)	全国平均を上回る学級数	13/13 学級				結果と課題の分析	改善方針	イ	ロ	ハ	コメント	
		児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導部】【研究部】 ○教職員アンケートによる調査 「全ての児童に学びの居場所がある。」 学びの場：所属学級、心の相談室、SSR、市ふれあい教室、フリースクール、リモート授業、保健室などの学びの場など 【評価時期】(7月、12月) 	居場所がある児童の割合	100%											
		【共感的な人間関係づくり】	児童質問紙によるアンケート調査 (う)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」 (え)「注意されたら、1回で直している」 (お)「自分にはよいところがある」* (か)「努力すれば、自分もたいいのことは出来ると思う」* (き)「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」 (く)「将来の夢や目標を持っています」 (け)「地域のことが好きです」(1,2年生) (こ)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」* (3~6年) 【評価時期】(7月 12月)	児童質問紙肯定的評価の割合	(う)95% (え)100% (お)85% (か)85% (き)100% (く)85% (け)85% (こ)85%											
健やかな体	生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する	【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心情の育成につながる授業改善】	児童質問紙よりアンケートによる調査 (さ)「体育の授業は楽しいです。」	(さ)90%					結果と課題の分析	改善方針	イ	ロ	ハ	コメント		
		<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整える取組の実施【保健安全部】 楽しく、運動量がある体育科の授業づくり【保健安全部】 自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業づくり【保健安全部】 児童同士が「見る」ことを大切に体育科の授業づくり【保健安全部】 安全に運動できる環境づくり【保健安全部】 	肯定的評価の割合 (す)80%													
働き方改革		教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、行事等の精選をし、児童に向き合う時間を確保することで、教職員の働きやすさと働きがいを両立する。【学校経営会議、進学校衛生、不祥事防止委員会】 ・行事等の内容を精選し、行事に係る練習時間を減少する。 ・総合的な学習の時間、生活科の内容を「じっくり、ゆっくり」と探究できる内容に精選する。 ・各々が担当する行事を精選するとともに、会議や研修等の時間設定を計画的に行う。 ・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。 ・生徒指導事案の未然防止の取組及び組織的に対応する体制をつくる。 ・個人情報に係る不祥事を根絶するための取組を不祥事防止員会で検討し、環境を改善する。	(ア)1か月月時間外在校時間が45時間以下 (イ)1年間における1か月月時間外在校等時間の平均時間 (ウ)1年間における時間外在校等の平均時間を年間 【評価時期】(8月末・1月末)	(ア)教職員の割合 (イ)平均時間 (ウ)平均時間	(ア)100% (イ)30時間程度 (ウ)360時間程度											

研究主題 主体的に考え、ともに伸びようと学ぶ児童の育成 ~必要感のある問いの設定と問い返し発問を中心とした算数科授業づくりを通して~

イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。